

さいたま市長定例記者会見

令和4年11月11日（金曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻になりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
 それでは、記者クラブ幹事社、朝日新聞社さん、進行をよろしく願い
 いたします。
- 朝日新聞 11月の幹事社を務めます朝日新聞と申します。どうぞよろしく願い
 いたします。
 それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いし
 ます。
- 市 長 皆さん、こんにちは。
 先頃3年ぶりに「J:COM presents 2022 ツール・ド・フランスさいた
 まクリテリウム」が開催されました。青く澄んだ秋空の下、世界最高峰の
 選手たちが繰り広げる気迫あふれるロードレースに、私自身、心から感動
 し、声援を送らせていただきました。沿道で、そしてテレビなどで御覧に
 なった多くの皆様も、自転車のすばらしさ、またスポーツのすばらしさをお
 感じになられたのではないのでしょうか。
 スポーツといえば、来週16日にはドイツ1部リーグのアイントラハ
 ト・フランクフルトと浦和レッドダイヤモンズが「さいたまシティカップ」
 で対戦をいたします。長谷部誠選手からは「日本でお会いできるのを楽し
 みにしています」というメッセージをいただいております。ぜひ多くの皆
 様に埼玉スタジアム2002へお越しいただき、一流のプレーを間近で御
 覧になっていただきたいと思います。
 また、22日からはパレスホテル大宮におきまして「さいたまサステナ
 ブル都市サミット～E-KIZUNAグローバルサミット～」を開催いた
 します。持続可能な都市の実現に向けて、先進的な取組を実施している国
 内外の都市や企業の皆様と意見交換や情報共有を行う予定ですので、こち
 らもぜひ御注目いただきたいと思います。
 それでは、議題に入らせていただきます。

市長発表：議題1「新型コロナウイルス感染状況とワクチン接種状況について」

議題1「新型コロナウイルスの感染状況とワクチンの接種状況について」御説明します。

まず、最新の本市の感染状況です。先週1週間の新規陽性者数は3,359人で、前の週と比較すると約1.43倍と3週連続の増加となりました。

日別の新規陽性者数については、こちら左側のカレンダーを御覧をいただきますと、赤くなっているのが前の週と同じ曜日よりも上回っている日になります。多くの日で前の週の同じ曜日を上回る発生が確認できます。

本市の感染状況は、10月に入り下げ止まりの状況でしたが、10月中旬から増加に転じ、週を追うごとに増加幅が拡大している状況です。今後、この拡大傾向が続くと、国の専門家会議で示されているとおり、この冬の新型コロナウイルスの感染拡大が過去2年より早く始まる可能性があり、さらに季節性インフルエンザも例年より早い流行が懸念されることから、最大限の警戒感を持って今後の感染動向を注視してまいります。

次に、本市の新型コロナワクチンの接種状況について御説明します。

11月11日時点でのオミクロン株対応ワクチン接種済数は13万7,348人で、接種率は11.5%となっております。10月21日から接種間隔が短縮され、オミクロン株対応ワクチンは12歳以上で従来型ワクチンを2回以上お済みの方であれば、最終の接種から3か月経過後から接種が可能です。

11月は、約430か所の個別接種実施医療機関に加え、市内8か所に集団接種会場を開設しており、集団接種会場だけでもおよそ6万8,000枠と十分な数の予約枠を用意しております。

新型コロナウイルスは、この2年間年末年始に流行しており、特に今年は過去2年より早く冬の感染拡大が始まる可能性も懸念されていることから、ぜひ早めの接種を御検討ください。

次に、今後の新型コロナウイルス感染症の動向ですが、専門家によると、この冬は新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行が懸念されており、その場合第7波より多くの発熱患者が生じることとなると言わ

れております。こちらのスライドですが、新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行下に発熱等の症状が見られる場合の受診から療養に至る流れになります。

まずは上半分、黒矢印のフローになりますが、①の高齢者、②の基礎疾患のある方、あるいは妊娠されている方、③の小学生以下のお子さんが発熱等の症状が見られる場合には、医療機関に直接受診していただくこととなります。その上で、症状や検査結果に応じて必要な治療を受けた上で、自宅療養等をしていただきます。

それ以外の下半分ですが、④の中学生から64歳までの基礎疾患がない方は、症状の程度にもよりますが、まずは新型コロナ検査キットを利用し、御自身で検査をしていただきます。自己検査の結果、新型コロナが陽性だった場合には、一番下の黄色い矢印のフローのとおり、県の確定診断登録窓口に御登録いただき、自宅療養等をしていただきます。一方、自己検査の結果、新型コロナが陰性だった場合には、その上の赤い矢印のフローになります。季節性インフルエンザ罹患の可能性も念頭に受診を希望する方は、医療機関を受診していただいた上で自宅療養等をしていただくこととなります。

限りある医療資源を高齢者や重症化リスクのある方につなげていくためにも新型コロナの検査キットを入手できる方について、可能な限り自己検査をお願いします。

そこで、この冬に向けて市民の皆様はこの4つのお願いをさせていただきます。まず、1点目ですが、基本的な感染防止対策の継続をお願いします。状況に応じマスクの着用、3密の回避、こまめな手洗い、そして換気です。2点目ですが、新型コロナウイルスワクチンの接種を完了していただきたい。感染拡大前の早いうちにできればお願いします。3点目は、季節性インフルエンザワクチンの接種です。高齢者をはじめ、季節性インフルエンザワクチンの接種を希望される方は、早めの接種をお願いします。そして、これらに加えまして4点目として、今回新たにお願いするものですが、検査キット等の事前購入をしていただき、発熱等の症状があった場合には活用していただきたいと思っております。

「この冬の感染拡大に向けた体制」でのフロー図の中で御説明したとお

り、中学生から64歳までの基礎疾患のない方は、新型コロナ検査キットで自己検査をしていただきたいと思います。そのために、市民の皆様にお願ひしたいことは、この冬の感染拡大前に発熱などの症状に備え、各御家庭で新型コロナ検査キットや解熱鎮痛剤、その他療養生活に必要な食料品などを事前に購入しておいていただきたいと思いますと考えております。かかりつけの薬剤師、薬局にお気軽に御相談いただきまして、検査キットや解熱鎮痛剤の事前購入に御協力をお願いします。

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行の可能性もある中で、さらなる感染拡大を乗り越えていくためには、本市のみならず市民の皆様のお協力が必要となります。一人ひとりが感染しない、させないための行動、そして体調不良時に備えた事前の準備をしていただくようお願いいたします。

市長発表：議題2「シェアサイクルのサブスクリプションサービスの実証実験を実施します」

続いて、議題2「シェアサイクルのサブスクリプションサービスの実証実験について」御説明します。

このたび本市では、シェアサイクル30分間の初乗り料金が月額1,500円で使い放題となるサブスクリプションサービス、いわゆるサブスクの実証実験を行います。期間は、12月1日から1月31日までの2か月間です。そして、この取組はJR東日本との連携により実施するもので、JR東日本のMa a Sアプリ「Ring o P a s s」を活用するサービスです。

ここでいうMa a Sとは、一般的に鉄道や路線バスなどといった複数の公共交通やシェアサイクルなどといった公共交通以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索、予約、決済等を一括で行うサービスの総称です。このMa a Sアプリで、シェアサイクルのサブスクリプションサービスを実証するのは全国で初めてとなり、さいたま市限定の取組です。

このサービスの対象は、発着駅のいずれかが市内のJR駅である通勤や通学の定期をお持ちの方になります。対象となる12月、または令和5年1月に有効なSuica定期券をJR東日本のMa a Sアプリに事前登録をしていただく必要があります。対象条件を満たせば、さいたま市民だけ

でなくさいたま市民以外にもサービスが利用可能です。

定額の対象となるのは初乗り料金で、30分を超える利用については、通常通りの課金となります。グラフは、さいたま市内で利用した場合の初乗り料金のイメージです。11回目までは乗った分だけ課金されます。そして、12回目以降は何度乗っても初乗り料金が1,500円になります。

この実証実験によりまして、Ma a Sアプリによる移動の利便性向上やユーザーにとって便利でお得を実感していただける料金設定など、シェアモビリティのサブスク実装に向けた有効性や課題を検証し、さいたま市内を移動する方々の多様な移動手段の確保と利用環境の向上を目指したいと考えています。

11月の中旬からは、シェアサイクルの後輪部分のドレスガードを通常の黄色いものからこちらの特別仕様のものに変えてPRをしていく予定です。

また、シェアサイクルのドレスガードのほかに11月21日以降、さいたま市内のJR駅でこちらのポスターを掲示する予定です。市ホームページに加え、JR東日本の特設ホームページでも紹介することになっておりますので、ぜひ御確認ください。

次に、このサブスクリプションサービス実施に至った背景として、本市で実施しているシェア型マルチモビリティの実証実験について御説明します。

本市は、令和2年度から公民学連携のさいたま市スマートシティ推進コンソーシアムでスマートシティ実行計画を策定し、各種施策を推進しております。この取組は、国土交通省の先行モデルプロジェクトとして選定されたもので、令和2年、3年に引き続きまして、今年度も国土交通省の支援事業に採択されております。今回のシェアサイクルのサブスク実証実験もこのプロジェクトの一環として、国土交通省の支援を受けながら実施することになります。全国に先駆けた取組です。

スマートシティは、ICTなどの先進的技術の活用によりまして、都市が抱える各種課題の解決を図り、快適性や利便性の向上を図る取組です。SDGsにもつながるものであり、本市としても重要な計画の一つに位置づけております。

「モビリティサービスの充実」、「ライフサポート型MaaSの構築」、また「スマートプランニングによるウォークアブルな都市空間環境の形成」、この3つを施策の柱として様々な施策を展開しています。この中のモビリティサービスの充実として、この赤で囲んだシェア型マルチモビリティに取り組んでおります。

次に、本市でシェア型マルチモビリティの実証実験に取り組むことになった経緯について御説明します。

2018年11月にシェアサイクルを始め、翌年8月にはスクーターのシェアリングを開始しました。2020年12月には、さいたま市とENEOSホールディングス、またOpenStreetの3者で基本協定を締結し、電動アシスト付自転車、スクーターに超小型EVを加えて、3種の乗り物を使った実証へと拡大しました。利用者のニーズに応じて、最適な移動手段を選択できるマルチモビリティシェアリングの社会実装に向けた取組は、まさにここから始まったものです。既に御案内済みですが、一昨日の11月9日から、4種類目の移動手段として電動キックボードを加えたところです。

ここで、電動キックボードの実証実験について御紹介します。11月9日から12月4日の約1か月間、大宮、さいたま新都心地区を対象にシェアサービスを実施します。新たな移動手段として、電動キックボードを加え、本市におけるマルチモビリティサービスの一つとして実装できるかなどを検証します。写真は11月5日のサイクルフェスタにおける安全講習会の様子です。先般、電動キックボードでの残念な交通事故があったことも踏まえ、事業者と連携して、十分な安全対策を構築した上でしっかりと取り組んでまいります。

次に、マルチモビリティ実証実験に導入されているモビリティのポート設置状況を御説明します。

こちらの左の図を御覧ください。この左の図は、シェアサイクル、スクーター、超小型EVの貸出し、返却できるポートの分布状況です。スクーターのポートは24か所、超小型EVのポートは18か所となり、実験開始からサービスを拡充しています。シェアサイクルにつきましては、9月末時点で約380か所になります。電動キックボードは、1つ前のスライ

ドで御説明をしたとおり、大宮、さいたま新都心地区を対象に11か所設置します。自転車のラック数は3,200以上を数えることになります。

鉄道沿線ではないエリアにも数多くのポートが広がっております。さいたま市内を歩いていると、シェアサイクルを毎日見かけるようになったことから、シェアサイクルポートが市内全域に広がっていることが伺えます。

こちらのグラフを御覧ください。まず、左のグラフですが、これはシェアサイクルのポート数の推移です。当初は、シェアサイクル事業者が民間企業へ営業を行い、民間地のみにもポートを設置しておりましたが、実証実験を開始して以降、駅前などの利便性の高い土地も含めて、本市の所有、公有地にも積極的にポートを設置したことで利便性が高まり、サービスが広く認知をされたところです。その結果、民間企業からシェアサイクル事業者へのポート設置の要望が増えたとも聞いております。

右のグラフは、利用回数を示したもので季節変動や緊急事態宣言などの影響で増減はあるものの、全体として右肩上がりに伸びている状況です。直近9月の速報では、約9万回の利用実績があります。そして、市内でシェアサイクル利用者がなんと10万人を突破しました。このようにシェアサイクルが市内に広がっていることを受け、今回のシェアサイクル30分間の初乗り料金が月額1,500円で使い放題となるサブスクリプションサービスの実証実験に至ったものです。

今回は、日常的に鉄道を利用する市民などを対象にして、このシェアサイクルのサブスクリプションサービスを提供するものです。この結果を検証して、将来的には定期を持たない市民や超小型EVなどを対象としたサブスクも検討していきたいと考えております。

市長発表：議題3「コラボレーションイベント「岩槻の人形×その着せ替え人形は恋をする Special Collaboration in KITTE～ガチの職人さんの技、見れちゃっていいの！？～」を開催します」

次に、議題3「コラボレーションイベント「岩槻の人形×その（着せ替え人形）ビスク・ドールは恋をする Special Collaboration in KITTE～ガチの職人さんの技、見れちゃっていい

の！？～」を開催します」について御説明します。

本市では、地域資源を生かした観光の振興に取り組んでおります。このたび本市を代表する地域資源である岩槻の人形をPRするため、岩槻を舞台としたアニメ「その（着せ替え人形）ビスク・ドールは恋をする」とコラボレーションしたイベントを開催することになりました。

当該作品は、ひな人形の顔を作る頭師を目指す男子高校生が主人公の人気アニメです。コミックスの累計部数は750万部を突破し、テレビアニメ化もされており、その制作に当たっては、実際に岩槻にある人形店「鈴木人形」を取材し、作品化されたものと聞いております。

コラボレーションイベントは、11月26日、27日の2日間、東京駅近くのKITTE内にある東京シティアイで開催します。

次に、当日の岩槻の人形関連企画の内容について御説明します。

1つ目は、岩槻で活躍されている頭師による人形の頭作りの実演で、職人によるプロの技を間近で御覧いただきたいと思っております。

2つ目は、実際に岩槻で作られ愛されている人形の展示、人形とともに飾る小物類の展示、また人形の製作技術、工程の紹介を行います。

3つ目は、岩槻のまち歩きを楽しんでもらいたいとの考えを持つ商業者により結成されました「武州岩槻町屋のれん会」が開発した新たな和菓子「雛ぐし」を販売します。

「雛ぐし」は、桐塑頭をイメージし、人形の頭の形をした桃山（様々なあんが入った和菓子）が、串に刺さったお菓子で、こちらを販売します。私も11月14日に「武州岩槻町屋のれん会」から訪問を受ける予定があり、試食を楽しみにしています。皆様にもぜひこの機会に御賞味いただきたいと思っております。

次に、アニメとのコラボレーション企画について御説明します。

まず、1つ目は、作中に登場する岩槻の街並みと実際の町並みの比較などの展示を行います。アニメに登場する岩槻の街並みをアニメのカットとともに紹介します。

2つ目は、作中に登場するキャラクターのコスプレ衣装の展示を行います。展示されるコスプレ衣装は、当日のお楽しみとなりますので、ぜひ会場でお覧ください。

3つ目は、キャラクター等身大パネルと写真が撮れるフォトスポットを御用意します。作中のキャラクターと一緒に写真が撮れる貴重な機会です。アニメファンだけでなく、多くの方に御利用いただきたいと思えます。

その他にも、岩槻の人形とコラボした様々な企画を追加する予定となっておりますので、ぜひ会場にお越しください。最新の情報は、市のホームページを随時更新しますので、御確認ください。今後は、市内でも「その（着せ替え人形）ビスク・ドールは恋をする」とコラボしたプロモーションイベントを展開していく予定です。

コラボレーションイベントの説明については以上です。

最後に、岩槻の人形関連で岩槻人形博物館及びにぎわい交流館いわつきの開館1,000日記念について御説明します。

既に記者発表しておりますが、この2館は11月17日木曜日で開館1,000日目を迎えることとなります。現在、岩槻人形博物館では、人形のまち岩槻における人形作りをテーマとした特別展を開催しております。地元岩槻をテーマとするのは開館以来初めてですので、地域の方々と様々な形で連携を図っております。

その一つとして、先ほどコラボレーションイベントで御説明した「武州岩槻町屋のれん会」が特別展で展示している桐塑頭をモチーフとした和菓子「雛ぐし」を開発し、販売しております。今回の開館1,000日記念に当たり、この「雛ぐし」を17日から28日までの間、来館者等へ御愛顧の感謝を込めて特典としてプレゼントします。

また、岩槻人形博物館では、これまでの1,000日を振り返りつつ、協力いただいていた方々への感謝の意を込めまして、歴代の10の展覧会ポスターを展示します。

先ほどの都内でのコラボレーションイベント、あるいは岩槻人形博物館やにぎわい交流館いわつきなどでの取組など、観光、経済、文化の面から人形のまち岩槻のPRや活性化につながる事業を展開していくことで、岩槻のまち、ひいては本市全体の成長発展をさらに図っていきたいと考えております。

私からは以上です。

○ 朝日新聞

どうもありがとうございました。

では、市長からの説明について、マイクを使用して質問をお願いいたします。

議題に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

コロナの感染状況が増えていますが、この検査キットの事前購入ということですが、これは十分な市民の方が購入できるような体制になっているのでしょうか、それとも市が何か補助するとか支援するというのはあるのでしょうか。
- 市長 現時点では、数については十分市場に流通していると伺っております。現時点では、市で補助等についてはまだ検討しておりません。
- 事務局 さいたま市の薬剤師会にお伺いしたところ、現在会員薬局さんでは検査キットが足りていないという情報は聞いていないと聞いております。
- 埼玉新聞 政府は、次の方針で、感染拡大したら外出自粛なども要請するという見通しですが、その辺については、今行動制限もない中で、また急激な規制に入る、その辺はどういうふうに、もしなった場合、受け止めていきますか。
- 市長 先ほども申し上げたとおり、現時点におきましても、これまで申上げてきた基本的な感染対策をまずしっかりしていただきたいということが1つ、それから、コロナのワクチン接種について、特にオミクロン株対応のワクチン接種についてはできるだけ早くお願いしたいというのが2つ目、同時流行が想定されておりますインフルエンザのワクチンの接種についても、できるだけ早い時期にお願いしたいというのが3つ目、そして4つ目が、今お話にありました検査キットを購入していただいて、適宜活用していただきながら安全対策、また現状の把握をしていただきたい。特に発熱された場合には、それを有効に活用していただいて、先ほど説明したフローチャートに従って対応していくことで、医療機関への負担が軽減できると思います。いずれにしましても、大分（感染者が）増えてきている状況ですので、改めてこれをもう一度市民の皆さんにお願いしたいと思っております。
- 朝日新聞 朝日新聞です。

今のコロナの関係ですが、この年末年始にかけてコロナと、あと

季節性インフルエンザの同時流行で発熱患者が増えるのではないかということ。コロナのワクチンについては、国費で皆さん受けられているんですが、インフルエンザの接種というのは今高齢者だけ補助が受けられると思うのですが、今回この年末年始にかけて市のほうで季節性インフルエンザのワクチン接種についても補助をするような、そんなお考えはないでしょうか。

○ 市長 現時点では、そういった考えは持っておりません。できるだけ早く、特にリスクの高い高齢者の方々については、早めに接種をしていただきたいと考えております。

○ 朝日新聞 もう一点、サブスクの実証実験なのですけれども、市のほうでシェアサイクル以外にもスクーターとか、あと超小型EV、かなり積極的に増やしているのですが、今回サブスク、シェアサイクル限定なんですけど、ほかの乗り物についてもやっつけていけばもっと利用が増えるのではないかなと思うのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

○ 市長 今回、まずは自転車だけに限定していますが、今後マルチのシェアリングサービスを私たちとしては目指しておりますので、段階的に増やしていきたいと考えております。JRさんの御協力もあって特に自転車の場合には駅まで通勤や通学で使うケースが非常に多いので、まず（シェアサイクルから）実証実験をして、その活用の状況などを把握しながら、順次広げていきたいと考えております。

幹事社質問：「さいたまクリテリウム」の開催結果について

- ① 3年ぶりの開催で多数の市民が集まりました。当初、経済効果30億円を想定しているとされていましたが、市のPR効果も含めて実際はどのようにみえていますか。
- ② 新型コロナウイルスの新規感染者が下げ止まる中、感染対策は十分だったでしょうか

○ 朝日新聞 それでは、幹事社として代表質問させていただきます。

先週末、国際自転車レース「ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」が11月6日に実施されました。前日のイベントとあわせて両日すごくいい天気でかなりたくさんの市民が来られました。そこで、3年ぶりの開催で、当初経済効果30億円を想定されているということで最初発表さ

れてスタートされましたが、今回の大会を実施されて、市のPR効果を含めて実際どのように見ていらっしゃるでしょうか。

あわせて、先ほど市長のほうから説明がありました新型コロナウイルスの新規感染、これ今ちょっと微増傾向なんですけど、その感染対策についてはどのようにお考えでしょうか。

○ 市 長 幹事社質問にお答えします。

まず、1点目からお答えしたいと思います。多くの来場者にお越しいただきまして、大会が盛大かつ無事に開催されたと考えております。まずは、協賛いただきました企業の皆さん、またオフィシャルサポーターズの皆様をはじめ、警察、交通事業者のほか、関係機関の皆様、また会場周辺にお住まいの市民の皆様、あるいは事業者様など、多くの方々の御理解、また御協力によるものです。皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

来場者数、経済波及効果、また広告換算値などの数値については、今後主催者のさいたまスポーツコミッションにおいて算出され、その後発表、公表したいと考えております。大会の開催が地域経済の活性化に貢献できたものと当日の様子を見て感じましたし、またさいたま市を国内外にPRできたと考えております。今後の数値を待つこととなりますが、大会を通じまして様々な効果がさいたま市にあることを期待しているところです。

また、新型コロナウイルス感染症対策については、主催者のさいたまスポーツコミッションが埼玉県に提出した感染防止安全計画に基づき行いました。また、事前の対策では、観戦時の注意事項として観戦中のマスクの着用、また大声を出す行為の自粛、小まめな手洗いや手指消毒等の対策を行っていただくよう大会ウェブサイトでお示ししました。また、当日は感染対策について、会場で配布された埼玉新聞号外に掲載したほか、会場でのアナウンス、また移動告知カーで繰り返しアナウンスさせていただき、観戦者の皆さんに呼びかけ、また確認させていただいたところです。また、ボランティア、職員、スタッフなど、さいたまクリテリウムで従事される方々には健康チェックシートでの自己管理などを実施させていただきました。このような基本的な感染防止策は徹底して行っておりました。

クリテリウムメインレースでは、ツール・ド・フランス最終戦に優勝し

ましたヤスパー・フィリップセン選手が今大会を優勝し、盛り上げていただきました。また、今年のツール・ド・フランス個人総合優勝のヨナス・ヴィンゲゴー選手、また今期引退しますアレハンドロ・バルベルデ選手、ヴィンチェンツォ・ニバリ選手が観衆を魅了し、私も感動と興奮を届けていただいたと感じております。

会場には、サイクルファンのみならず、小さなお子様から御年配の方々まで本当に幅広い多くの方々に御来場いただきまして、楽しんでいただき、たくさんの笑顔を見ることができたと思っております。御来場いただいた方には満足していただけたと感じているところです。

以上です。

- 朝日新聞 代表質問の説明に関して、質問のある方はお願いします。

幹事社質問に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

来場者数はまだ出ないということなのですが、市として大体どれぐらいというふうに見ていて、前回よりもどれぐらいの増減があったのかというふうに見ているのでしょうか。

- 市長 見た感覚的なことだけでいいますと、前回並みには来ていただいたのではないかなとは思っていますが、毎回ドコモのモバイル空間統計[®]を活用して、できるだけ正確な数値をはじき出そうとしていますので、確度の高い数値を後日発表したいと思っております。少々お待ちいただきたいと思っております。見た感じですと、特にメインレースの始まる頃は、前回よりも多いぐらいではなかったかなという印象を持っております。

- 埼玉新聞 見通しはいつ頃ですか。

- 事務局 来場者数につきましては、先ほど市長からもございましたモバイル空間統計を使用して算定しております。スポーツコミッションからは、その数字が出てくるまでにおよそ1か月程度要すると伺っております。

- 埼玉新聞 随分遅いですね。分かりました。ありがとうございます。

- 朝日新聞 それでは、そのほか質問のある方は質問してください。

議題3に関する質問

- 読売新聞 読売新聞です。

ちょっと先ほどの市長の発表内容にかかってしまうんですけども、

3つ目のコラボレーションイベントについてなのですが、「その(着せ替え人形) ビスク・ドールは恋をする」という作品は、漫画は前からやっているようで、何かアニメのほうも今年の初めのほうに放送されたようなんですが、今この企画が行われる理由について教えていただけますか。

- 事務局 観光誘客事業の一環としまして、この人形プロモーション事業を今年度行う予定でした。今お話しいただいたとおり、当該アニメが今年の1月から3月にかけてテレビでアニメ化をされました。この人形をキーワードとしまして、何かコラボができないかということで、さいたま市よりアニメの制作会社のほうに打診したところでした。いわゆるこの「着せ恋」の製作委員会や作者の御承認をいただきまして、協力が得られ、今回のコラボレーションが実現したということです。

以上です。

議題2に関する質問

- 読売新聞 分かりました。
別件で、サブスクのほうの確認になるのですが、さいたま市内のJR駅を発着点とするというのが今回の趣旨だと思うのですが、通学はともかく、通勤については、ちょっとテレワークも今広がっている中でこういう形になっていますが、例えばシェアオフィスとか、そういうところを使っている人もいるかと思うのですが、あくまでも今回の対象は通勤通学の定期を持っている人のみが対象ということでしょうか。
- 市長 今回は現時点で定期を持っている方を対象としています。また、定期を持っていない方々などについては、今回2か月間行います実証実験を踏まえて検討させていただくことになると思います。
- 読売新聞 あと、関連なんですけれども、通勤定期券、通学定期券を持っている人が対象ということですが、いわゆる通勤通学以外の利用でもいいということでしょうか。定期券を持ってさえいれば使っていということでしょうか。
- 事務局 そのとおりでございます。発着がさいたま市内(のJR駅)であれば大丈夫です。

その他：そごう西武の売却による影響について

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。

報道でありましたけれども、セブンイレブンがそごう西武を売却するという事ですので、大宮に長くあるそごう大宮店がこれからどうなるかはちょっとまだ分からないですけれども、商業施設としての一面を占めていたお店がもしかしたらなくなるかもしれないということですが、市としての受け止めをお願いいたします。

○ 市長 セブン&アイ・ホールディングスがそごう西武をアメリカの投資ファンドに売却するという動きがあるということについては、報道で承知をしております。大宮駅西口のそごう大宮店は、さいたま市民はもちろん、近隣の方々からも長く親しまれているデパート、商業施設です。現時点では、市には関連する情報は入っておりませんので、何とも申し上げられませんが、強い関心を持って動向を注視していきたいと考えております。

○ 埼玉新聞 ビックカメラが入るかもしれないというような……

○ 市長 ヨドバシカメラではないですか。

○ 埼玉新聞 すみません。ビックカメラが今入っていて、ヨドバシがもしかしたら入るかもしれないというような報道もありましたけれども、その辺何かがらっと西口が変わってしまうのではないかという印象を受けるんですけれども、その辺はいかがですか。

○ 市長 大宮そごうについては、総合的な売場を有して、それぞれブランド力の高い店舗などが売場を展開していますので、そういった状況と少し変わってくる可能性もあるだろうと思っておりますけれども、いずれにしても現時点では十分情報を把握していませんので、何とも言えませんけれども、私たちとしては非常に重要な商業施設であると認識しておりますので、引き続き強い関心を持って動向を注視していきたいと思っております。

その他：クリテリウムWEEKの取組について

○ 読売新聞 読売新聞です。

さいたまクリテリウムの関連で市長に伺いたいのですが、今年はクリテリウムWEEKとか3年前にはなかった新しい取組も行われたと思います。この前の盛り上がりも直接市長は御覧になって、今回のクリテリウムWEEKの取組についてはどう受け止めていらっしゃるのか伺えますでしょうか。

○ 市長 今回クリテリウムWEEKという形で、これまでは大体当日と前日ぐら

いで行われてきたイベントでしたが、今回はもう少し長い期間PRをしていこう、あるいはツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの大会を楽しんでいこうという趣旨で約1週間、あるいは1週間以上にわたりまして展開してまいりました。さいたまクリテリウムを単に見るだけのイベントだけではなくて、参加する、体験することもできるだけ行ってきたいという目的で開催されました。

特に大会1週間前からコクーンシティで展示が行われ、市内の高校生にクリテリウムや自転車に関連した黒板アートを制作していただき、広報イラストも作成していただきました。また、さいたま市のPR動画の撮影及び制作まで全てを浦和中学校で作成していただいて、さらにそれを全て英語でやっていただくような取組も行いました。また、これまでもやってきた幼稚園、保育所、それから小中学生での給食なども実施しましたので、このツール・ド・フランスさいたまクリテリウムに様々な形で触れる機会がこれまでよりも増えてきたのではないかと考えております。

そういう意味では、これまで以上に盛り上げることができたのかなと思います。特に天気の関係もあったと思いますが、例年と比べて1日目のイベントが非常に多くの皆さんに集まっていたと思いますし、また当日も本当に多くの皆さんにお越しいただいたと実感しているところです。

その他：地下鉄7号線延伸について

○ 朝日新聞

朝日新聞です。

地下鉄7号線のことでお伺いします。市長は、来年度、地下鉄7号線延伸に向けて、事業者に対して事業申請をしていきますということで方針を掲げられています。今中間駅についてのまちづくりの専門家による検討もされています。まだ今年度4か月ちょっとありますけれども、今現在の進捗、手応え、あと事業申請をするに向けて今どのように行われているか教えてください。

○ 市長

現在、御案内のとおり、中間駅周辺のまちづくりについては、専門家の皆さんに御議論いただきながら、今まとめの作業を行っているところです。私としては、現在の社会情勢の変化で、アフターコロナとか、あるいはSDGs、またゼロカーボンについて意識したまちづくりをしていきたいというのがベースにあります。それらに対応したまちづくりが必要不可欠で

はないかと思っております。ちょうど先日の11月4日に第4回目の有識者会議が開催をされ、中間駅のまちづくりについての土地利用方針、また基盤整備イメージなど、より具体的な内容が議論され、活発な意見交換が交わされたと伺っております。

議論におきましては、駅周辺の空間利用、緑豊かな地域資源の活用などが提案されたと伺っております。現在4回にわたる有識者会議が行われてきて、それぞれの委員の皆さんの意見を事務局で整理、取りまとめを行っていると思っております。そういった有識者の皆さんの意見を反映した形で、まちづくりについての基本的な方向性といえますか、計画がつくれるように努力していきたいと考えております。

今後この有識者会議でまとめられましたまちづくり方針は、地下鉄7号線延伸事業特別委員会、市議会の委員会で報告をした後、1月下旬に地下鉄7号線延伸地域においてオープンハウス型の説明会を実施していこうと考えております。そして、年度内にこのまちづくり方針の策定を予定しています。地下鉄7号線については、来年度の鉄道事業所への事業要請を予定している状況ですので、その中でこの中間駅のまちづくり、非常に重要な課題の一つでもありましたので、このまちづくりの方針を基礎として、着実に事業化に向けて検討を進めていきたいと考えております。

○ 朝日新聞 有識者の方も職員の方も皆さん一生懸命頑張っていらっしゃるのですけれども、市長としては順調に進んでいるというお考えでしょうか。

○ 市長 はい、そのように認識をしております。

その他：第9回自転車利用環境向上会議について

○ 埼玉新聞 それに絡むかもしれないのですけれども、11月4日に自転車活用の全国推進会議がありましたけれども、フランスとかパリ、オランダの先進事例が紹介されていましたが、大胆な取組で、これはなかなかさいたま市だけでは難しいような取組だと思うのですけれども、車、自転車、歩行者の分離というのは大変重要だと思いますので、この辺は中間駅にも取り入れられるのかなとか思いながら、会議に参加されての受け止めをお願いいたします。

○ 市長 今、御指摘のとおり、フランスにおいても、特にオランダにおいては非常に先進的にまちづくりの中でのモビリティの在り方について、自動車中

心から自転車、あるいは人中心に大きく転換していることを肌で実感したところでは、カーボンニュートラルであるとかSDGsが大変声高に叫ばれている中で、今後私たちが目指すべき方向性のたくさんヒントをいただいたと思っております。今後自転車と歩行者と、それから自動車の分離等、いろいろ課題が大きいと思います。これは、今後交通関連の法令であるとか条例等の絡みも出てくると思いますし、さいたま市単独ではできないことも多々あると思っておりますが、将来の様々な展望をしていく上で非常に示唆に富んだ取組をたくさん学ぶことができましたので、今後さいたま市として取り組めることなどをしっかりと整理しながら、今後のまちづくり、自転車のまちづくりに生かしていきたいと考えております。

○ 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は11月24日木曜日午後2時からを予定しております。本日はありがとうございました。

午後 2時23分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。